

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名 「手紙を書こう」

教材名 「お手紙」

2 単元の目標

- ・いろいろなお話に興味を持ち、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読んだり、声に出して読んだりして、お話を楽しもうとしている。
- ・場面の様子や、登場人物の行動や会話を中心に広げながら楽しく読むことができる。
- ・がまくんやかえるくんの特徴や気持ちの変化を表している語句や巧みな表現に気づき、親しみをもつことができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○いろいろな物語を、場面の様子を想像したり、声に出して読んだりして、お話を楽しんでいる。	○場面の様子や、登場人物の行動や会話をもとに気持ちの変化に気づき、想像を広げながら読み深めることができる。	○終助詞、たたみかけなどの巧みな表現に気付いている。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

「手紙を書こう」を単元を貫く言語活動に設定した。3次の手紙を書いた後の交流により、友達を思いやる気持ちを互いに学び合うことを大事にしたいと考えた。主な登場人物が、がまくんとかえるくんしかいない本教材は、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読むことに適した教材だと言える。物語が進むにつれ、お手紙を待つ二人の行動がどう変わっていくのかを読み取らせたい。また、想像を広げながら楽しく読み深めさせたい。

(2) 教材文について

本教材は、がまくんとかえるくんという二人の登場人物の、会話を中心に構成されている物語である。友達を思い、さりげない心遣いで喜ばせようとする優しさと友達を思う温かい心により、より深まる二人の友情が主題となっている。

「だれも、ぼくにお手紙なんかくれたことがないんだ。」と言いながらも、お手紙を待ち続けるがまくんの悲しい気持ちを汲み取り、お手紙を出そうと思いつくかえるくん。この二人の友情を描いた物語である。自分の身近な存在である、友達を意識し始める二年生にとって共感しやすい教材だと言える。叙述を基にして、二人の会話や行動を中心に読み取らせ、二人の温かな交流やお手紙のやりとりによって深まった友情を感じさせたい。

5 研究主題に迫るために（学習活動の工夫）

- (1) 4つの思考の型を取り入れた言語活動
- (2) 「物語文を読む10の観点」の活用
- (3) 音読の工夫
- (4) 板書の工夫・学習環境の工夫

- ・学習の振り返りができるように、模造紙に書いて教室に掲示し、以前の学習内容を振り返ることができるようにする。

- ・本題材の情景を児童が浮かべられるように挿絵も黒板に掲示する。

(5) ワークシートの工夫

- ・一単位時間ごとにワークシートを用意し、考える場面を限定することで、児童が課題に取り組みやすくなるようにする。

(6) 読み（考え）を深める

- ・物語を読み深めた後、がまくんになって、かえるくんに手紙を書く。この物語の締めくくりとして、登場人物の心情に寄り添って書かせる。また、友達との交流を通して、物語への読みをさらに深める。

6 学習指導計画（全9時間）

次	時	ねらい	主な学習活動と4つの思考	評価規準・方法
1	1	全文を読んで初発の感想を交流する。	・物語が5つの場面から構成されていることをとらえ、中心人物が、がまくん、かえるくんであることをつかむ。 ・心に残ったことを中心に感想を書く。	【関】物語を想像しながら、心に残ったことを感想に書くことができる。 (発表・ワークシート)
	2	物語の大体をつかむ。	<u>物語のあらすじをとらえよう</u> ・10の観点に基づき、物語の構成を捉える。	【読】物語のあらすじをつかみ、ワークシートにまとめることができる。(ワークシート)
2	3	第一場面からかえるくん、がまくんが悲しくなった心情を読み取る。	<u>お手紙がもらえないがまくんの悲しい気持ちを見つけよう</u> (第一課題) ・がまくんの悲しい気持ちが表れているところにサイドラインを引く。【選択】 <u>かえるくんも悲しい気分になったのは、がまくんのどんな言葉からか</u> (第二課題) ・「お手紙なんか」という表現に着目し、悲しい気分になったかえるくんの気持ちを読み取る。【選択】 (言葉の力)「なんか」	【読】お手紙がもらえないことを悲しむがまくんと、それを見て悲しむかえるくんの気持ちを読み取ることができる。 (発表・ワークシート)
	4	第二場面を読み、手紙を書いたかえるくんの心情を読み取る。	<u>かえるくんの行動を見つけよう</u> (第一課題) ・かえるくんの気持ちが分かる行動にサイドラインを引く。 ・～帰りました。～を見つけました。～書きました。～入れました。～書きました。【選択】 <u>かえるくんの急いでいる気持ちが表れている表現を読みとろう</u> (第二課題) ・かえるくんの急いでいる気持ちが分かる表現を捉える。【選択】 (言葉の力)「大いそぎで」…「大」非常に	【読】かえるくんが、急いでお手紙を書こうとする表現から、かえるくんの優しさを読みとることができる。 (発表・ワークシート)

	5	第三場面を読み、二人の心情の違いを読みとろう。	お手紙に対する二人の気持ちを比べよう (第一課題) ・がまくん→投げやり。お手紙なんかくることがない。 ・かえるくん→お手紙がくることが分かっているから、早く来ないかなあ。【比較】 「まだやってきません。」という言葉から、かえるくんの気持ちを考えよう (第二課題) ・3回出てくる繰り返し表現について考える。【選択】 (言葉の力) まだやってきません。	【読】 手紙に対する二人の思いを比べ、繰り返される表現から、かえるくんの気持ちを読み取ることができる。 (発表・ワークシート)
	6	第四場面を読み、お手紙がくることを知ったがまくんの心情を読み取ろう。	がまくんの気持ちを考えよう (第一課題) ・移り変わっていくがまくんの気持ちを見つめる。【選択】 「ああ。」に込められている、がまくんの気持ちを考えよう (第二課題) ・感動の気持ちから出た、がまくんの言葉を考える。【類推】 (言葉の力) ああ。	【読】 「ああ。」という言葉から、手紙をもらえることと、手紙の内容に感動したがまくんの気持ちを考えることができる。 (発表・ワークシート)
	7 (本時)	第五場面を読み、お手紙を待つ、かえるくんとがまくんの気持ちを比較して読む。	お手紙を待っている二人の気持ちはどうでしたか (第一課題) ・お手紙を待つ二人の幸せな気持ちを考える。【選択】 お手紙を待っている間、ふたりは何を思っていたのでしょうか (第二課題) ・第一場面と第五場面のかえるくん、がまくんの様子を二つの場面の違いから比べる。【類推】 (言葉の力) 比べられる表現 (対比表現)	【読】 表現を比べ、お手紙を待つ二人の気持ちを読み取り、それにより、より深まった友情を読み深めることができる。 (発表・ワークシート)
3	8・9	「お手紙」の学習を終えて、感じたことを話し合う。	がまくんになってかえるくんにお手紙を書いてみよう ・初めてお手紙をもらったがまくんが、どんな返事を書いたのか、心情を想像し、手紙を書く。 書いたお手紙を交流しよう ・がまくんになって書いたかえるくんへの手紙をペアやグループで交流し、感じたことを話し合う。	【読】 かえるくんへの手紙を発表し合い、一人一人の感じ方の違いに気付いている。 (手紙・発表)

7 本時の指導 (7 / 9 時)

(1) 本時の目標

- ・お手紙を待つ第一場面と第五場面の違いに着目して、二人の友情の深まりを読み深めることができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	1 前時までの学習活動を振り返る。		
	2 本時の課題を知る。		
	お手紙をまっているふたりの気持ちはどうでしたか (第一課題)		
	3 第五場面を微音読する。 手紙を待つ二人の心情が表れている文にサイドラインを引く。【選択】		

展開	お手紙を待っている間、ふたりは何を思っていたのでしょうか（第二課題） 4 第一場面の文と第五場面の文を比較する。 〈お手紙を待つ時間〉 【第一場面】 ふたりとも、かなしい気分で、げんかんの前にこしをおろしていました。 ○手紙を一度ももらったことがなくて悲しい。 【第五場面】 ふたりとも、とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。 ○かえるくんがお手紙を書いてくれて嬉しい。 ○かえるくんが親友で嬉しい。 ○がまくんに喜んでほしい。 ＜言葉の力＞ 比べられる表現（対比） 第一場面と第五場面の二つの文を対比して、お手紙を待つ二人の気持ちに気付く。 【類推】 【第一場面】 「ふしあわせな気持ち」 「かなしい気分」 【第五場面】 「とてもしあわせな気持ち」 ・同じ場所で同じように手紙を待っているのに、幸せと感じられた。 ⇒お手紙を通して、お互いの友情を確かめられ、更に深まった。	○手紙を待つ二人の幸せな気持ちをおさえる。 ○手紙を待つ二人の気持ちを考えさせる。 ○第一場面の二人の心情を確認する。 ○同じ場所で同じように手紙を待っているのに、幸せと感じられた理由を考えさせる。 ○かえるくんが、がまくんに手紙を出した優しさにより、二人の友情が深まったことを考えさせる。 ○手紙のやりとり、友情を確認しあえたことにより、二人が「とてもしあわせな気持ち」になったことを確認する。	【読】表現を比べ、お手紙を待つ二人の気持ちを読み取り、それにより、より深まった友情を読み取ることができる。 （発表・ワークシート）
まとめ	5 本時の学習の振り返りをする。 ・本時の学習を振り返りながら、第五場面を音読する。 ＜言葉の力＞ 比べられる表現（対比） 二つの文を対比して、幸せな気持ちでお手紙を待つ二人から深まった友情をとらえられたことを確認する。 6 次時の学習のめあてをもつ。 ・次時の学習では、がまくんの気持ちになってかえるくんにお手紙を書くことを知る。	○とても幸せそうに手紙を待つ二人の気持ちを考えながら音読させる。	

